

和の光

宝塚市立西谷中学校



■進路学習講演会「名物機長の夢実現」その4



幼い頃から機長になったお話までたくさん語っていただきました

<参加された皆さんの感想>

★お話をしていただき有難うございました。言葉ではうまく言えないけれど、地域の建物や植物について紙も見ずにスラスラと言っていたのが凄いと思いました。飛行機の扉が閉まってすぐにアナウンスするのも凄いと思いました。山形さんの飛行機に乗ってみたいくなりました。飛行機が着陸する時など、揺れることがあるのを「天使のいたずら」と言った表現が面白かったです。トンボとザリガニを捕まえる方法を自分で導き出してとても凄かったです。私だったらネットで調べると思いました。今までも「有難う」と言ったり、「有難う」と言われたりするようにしていたけれど、数えることはしていなかったので、数えるようにしたいです。学校の先生の話も凄いと思います。怒るのが嫌でもしっかりと怒ってくれて、お米も自分で買ってくるのが凄いと思いました。改めて有難うございました。（小学5年生）

★山形さんへ、講演会とても楽しく面白かったし、勉強になりました。特に面白かったのはギンヤンマの話です。4匹目を捕まえようとしたら全部逃がしてしまったところが面白かったです。勉強になったのは、一日に一つでも「有難う」と言われることをすると夢が見つかることです。あと、天才バカボンの話やアナウンスがとても面白かったです。（小学5年生）

★山形さんへ、僕は生き残ることの難しさ、有難うと言う・言われることのお話が一番心に残っています。生き残ることはとても簡単だと思っていたけれど、山形さんのお話を聞いてとても難しいことだと思いました。有難うと言う・言われることは当たり前のことと思っていたけれど、お話を聞いて大切なことなんだと学びました。（小学5年生）

★山形さんへ、昨日は山形さんの講演がとても面白かったです。生き残ることの難しさや相手を観察することなどを教えてもらい勉強になりました。一度、山形さんがアナウンスをする飛行機に乗ってみたいかったです。僕は生き残ることはとても簡単だと思っていました。でも、お話を聞いてとても難しいことだと思いました。これからも有難うを大切にしていきたいと思います。（小学5年生）

★この前は講演会をしてくれて有難うございました。山形さんは幼い頃、根暗だったけれど明るくなっていったのがすごいと思いました。最初のユニークなアナウンスが聞けて嬉しかったです。他にもいろいろな経験について話を聞けて楽しかったし嬉しかったです。（小学6年生）

★講演会に来て下さり有難うございます。最初のアナウンスを聞いて話が面白くて楽しかったです。生き残るためには困難なことも乗り越えなければいけないことが分かりました。相手を観察すると好きなものが分かるということも学びました。毎日1度は「有難う」を言えば家族や友達も嬉しくなるという話を聞いて、私も「有難う」と言おうと思いました。（小学6年生）

★この前は、来て下さり有難うございました。飛行機のアナウンスを聞いて、お客さんが飛行機を怖がらないように、その地域の言葉でアナウンスをしていて凄いなと思いました。また、相手を観察することの大切さや生き残ることの難しさなどたくさんの事を知れて嬉しかったです。有難うございました。（小学6年生）

★山形さんへ、この度は西谷へ来て下さって有難うございます。生き残ることの困難さをどのように工夫して生き残るかがよく分かりました。相手を観察することの大切さについての話では、まずは相手をよく観察して知ることの大切さを知りました。夢や好きなことを見つけるということも大切だなと思いました。山形さんのことをよく知ることができました。有難うございます。

（小学6年生）



小学生も熱心に聞き入ります



握手でお別れしました

子どもたちの表情を見てお分かりのように、山形さんの経験に基づく分かりやすいお話に子どもたちは自然に引き込まれていきました。相手の立場になって考えることの大切さ、大きな夢と身近な目標を持つことの大切さ、周りの人に感謝すること・感謝されることの大切さ、好きなことを極めることの大切さなど……、とても多くの学びを与えて頂きました。山形さん本当に有難うございました。裏面に生徒からの質問に対する回答を紹介します。（この質問事項は講演会前に山形さんに送付し、回答いただきました。全部で33項目の質問に回答いただきましたが紙面の都合、一部抜粋とさせていただきます。）

① パイロットになるためにはどのような勉強や訓練をしてきましたか。しんどかったですか。
(2年生男子)

質問に答える前に、長くなりますが航空大学校の受験の為の概要を説明させてください。受験資格等は変わることもありますので、航空大学校のホームページで確認して下さい。

現在は、受験時に、大学2年修了、短期大学、高等専門学校卒業又は専門士、高度専門士の称号取得見込みの資格で受験し、合格した者については、令和8年3月末日までに定められた単位数の取得、卒業又は専門士、高度専門士の称号取得の要件が満たされないときは、入学を許可されません。

私の時代には、主に民間のパイロットになるには、国立(当時は運輸省、現在は国土交通省)の航空大学校を受験して合格するしかなかった(現在は大学卒業か卒業予定者が各航空会社の操縦士募集試験に受験やパイロットを養成する大学に入学等かなり高額費用が掛かりますが基礎操縦の資格を自分で取得してから、航空会社の入社試験を受験等もあるようです)ので、入学予定の前年の早い時期に、一次試験(物理、数学、英語)に合格したら、秋に二次試験(航空身体検査と地上機器での適性検査)それに合格したら、年末までに、三次試験(面接と練習機に教官と同乗して、三回の実技適性検査)がありました。

質問本題の答えとしては、最初の航空大学校の一次試験受験までは、普通の大学受験の勉強をしていました。航空大学校に合格してからは、一年以内に航空級無線通信士の国家試験を受けて合格しないと強制退学でしたが、この試験はそんなに難しくはありませんでしたので、同期は全員取得しました。その他実機訓練に必要な、飛行機の構造や航空法、機器の取り扱いを学びながら実機での訓練をしました。その人の適性によって進み具合が違いますので、しんどさも人それぞれだったと思いますが、私は、操縦が大好きだったので、ほとんど悩むこともなく、しんどさもなく、むしろ楽しかったです。最初教官と一緒に乗務して教えて頂き、一定の乗務時間でソロフライト(一人だけ乗務で単発機操縦して離発着を行う)が出来なければ退学です。そして「自家用操縦士の国家試験」その後エンジンが二つの双発機に乗り換えて、「事業用操縦士の国家試験」その後、雲の中や夜間に飛行する為の「計器飛行証明取得試験」の国家試験に合格(現在の航空大学校は、ここ迄のライセンスを取得して、各航空会社に就職かな?)私の時は、当時エアラインでお客様を乗せて飛んでいた旅客機YS-11の限定変更国家試験を受けて合格し、YS-11の操縦資格を持ってANA全日空に操縦士として入社しました。その後、副操縦士訓練を受け社内試験に合格して、23歳で副操縦士として乗務、その後も、乗務機種変更や機長昇格の試験に合格して、機長昇格後は半年に一回の資格維持の定期技能審査試験と年一回の路線資格試験など、何十回も国家試験と社内審査を受けて、合格しました。ANAに約42年在籍していましたが、6機種の乗務資格を取らせていただき、その資格を維持する為も含めれば、トータルで5年間ぐらひは、訓練を受けておりそのたびに受験して、審査に合格しました。それとは別に、航空身体検査も半年ごとに受験して退職迄84回全て一回で合格しました。当初の限定変更訓練は米国で外人の教官パイロットに教えて貰ったりしたのもあって、上達の具合によって辛いこともありましたが、今となっては良い思い出となりました。

② ユニークな機内アナウンスをするきっかけになったことは何ですか。(2年生男子)

お客様と一緒に機内で移動するときに、機長のアナウンスがあった時のお客様の様子から決まりき

った内容のアナウンスだと大多数のお客様が耳を傾けていないのを知って、できるだけ多くのお客様に聞いていただく為にはどうすれば良いかを考えた結果です。

③ 飛行機のパイロットになって良かったことは何ですか。(2年生男子)

私は乗り物が好きだったので、離陸から上昇する加速感とコックピットからの眺めは最高でした。又。長距離国際線では外国に何度も行きそれぞれの国の雰囲気を楽しめました。

④ 飛行機を操縦するのが一番難しい天候は何ですか(2年生女子)

上空では、気象レーダーで、強い揺れが予想される所は、管制許可を得て出来るだけ避けて飛行しますが、離陸や着陸の為に、どうしても飛行しなければならない所に、巨大積乱雲の下等では、強烈な気流の変化があります。昔はなかったのですが現在は前方の気流の乱れを感知して、パイロットに自動音声で繰り返し警告(ウィンドシアア)できるようになっていて、その時はその空域を速やかに離脱して、着陸等はやり直し(ゴーアラウンド)します。

⑤ 特徴的な場を和ませるアナウンスはその場で思いつくのですか。(2年生女子)

最初は、私も型どおりのアナウンスでしたが、できるだけ多くのお客様に聞いていただくために、自分の言葉にアレンジしたら、お客様からのお褒めや励ましのメッセージを頂き、ファンクラブ迄出来て追っかけて搭乗のお客様(最高3日間で7便連続御搭乗)も、おられましたので、私のオリジナルアナウンスに、当日のお天気や季節感、時にはその土地のイベント等も前もって調べて、組み込めるようにしていました。又、駄句ではありますが、俳句も最後に詠んでいた(アナウンス最後に一句浮かびましたと言って)事もあり、前述の7便連続ご搭乗の時は、全員ご搭乗後の出発時「ウエルカムアナウンス」上空の着陸の為の降下前「到着予定や天候等」着陸後ゲート到着後「お礼とお見送り」の三回アナウンスしていましたので、その最後に一句を詠みました。その俳句は、当日の天候等も予想して、前もって考えて最低21句以上考えて、メモしていました。

⑥ パイロットになるためには勉強がたいへんだったと思いますが、勉強は好きだったのですか。
(2年生女子)

講演で話しますが、小学生の時は勉強より、遊びや他の事に夢中でした。ただ、5年生の時に父親が亡くなり、それから習い事をして、それが好きになり毎日練習し一日も休まず、限界まで努力したのが、自信になり勉強も出来るようになりました。航空大学校に入学後は国家試験に合格する為の勉強でしたが、好きな仕事の為ですので苦には成らなかったです。

⑦ 飛行機の操縦席にはたくさんのスイッチ等がありますが、操作を間違えそうになることはないのですか。(2年生男子)

飛行機の種類が変わるたびに、座学訓練や模擬飛行装置(シミュレーター)などで何度も訓練してから、試験を受け合格して、乗務しますので滅多に間違える事はありません。特に重要な操作は、チェックリストで読み上げながら二人で確認しながら操作します。